

平成 29 年度 南信教育事務所だより

教学半也

教えるは 学ぶの 半ばなり

<目次>

- 1 授業の質的向上を目指して (Part 2) …p1・2
- 2 「特別の教科 道徳」の実施に向けて② …p3
- 3 総合的な学習の時間の充実① …p4
- 4 研修会報告 …p5・6

仙丈ヶ岳(南アルプス)

第6号 1月5日(金)

1 授業の質的向上を目指して (Part 2)

国語 言葉の使い方に着目し、比較して考える 小1「くじらぐも」

本時のめあて「くじらぐもにのって空のたびをするようすをそぞうしてよもう」の全体追究の一場面です。場面の様子について想像を広げながら読めるように、K先生は、繰り返しの言葉である「青い 青い」「どこまでも どこまでも」に着目させ、二回繰り返す場合と一回だけの場合ではこの場面の様子がどう違うか比較して考える場を設定しました。

先生：まず、「青い 青い空」とは空がどんな様子か考えてみましょう。これが「青い空」だけだった場合と比べると、どんな様子かな？（個人追究の時間をとる）

Aさん：「青い空」だと普通の青い空のようだけど、「青い 青い」だとすごく青い空のような感じがする。

Bさん：Aさんと同じで、「青い 青い」だと雲がなくてどこも青い空になっている。

先生：「(空は) どこまでも どこまでも」のところは、「どこまでも」だけだった場合と比べると、どんな様子かな？（個人追究の時間をとる）

Cさん：二つついていると、一つの時よりも(空が)奥までずっと続いている感じがする。

先生：なるほど。「雲がなくてどこも青い空、どこまでもずっと続いている」と板書）
二つの言葉が続けて繰り返されると、その言葉の意味を強める感じがするね。
では、くじらぐもは「青い 青い空」をどんなふうに進んでいったの？…

（この後、「くじらぐも」と「子どもたち」の行動に着目して場面の様子を想像して読んでいく）

子どもたちは、一回だけの場合と比較することで空の青さや無限さが強調されていることに気づき、場面の様子について想像を広げて読んでいきました。

音読の練習をする場面で、Cさんは「青い 青い」の2回目の「青い」を強く読み、「どこまでも どこまでも」の2回目の「どこまでも」を、徐々に強くすることで広がっていくように音読していきました。K先生の、言葉の使い方に着目させ、比較して考える場を設定したことが、子どもたちやCさんの姿につながっていったのです。

算数・数学 日常生活の問題を解決し、得られた結果を吟味する活動
(小3 余りのあるわり算)

本時までに児童は、余りのあるわり算の余りの数の処理について学んできました。その後、「余り」や「商」を具体的な元の事象に戻して考察することが重要であると考えたH先生は「余り」をどのように解釈すればよいか考える授業を構想しました。

【学習問題】

27人の子どもが4人がけの長いすにすわっていきます。
みんなすわるには、長いすが何きゃくいりますか。

導入で、H先生は子どもとのやりとりから $27 \div 4$ と式を決定し、個人追究で問題の答えを予想させ、以下のように余りの数に着目させました (写真①)。

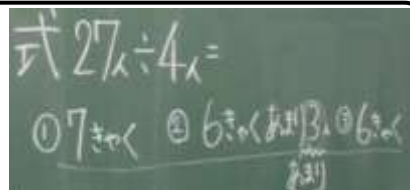
先 生：困っていることがある人いる？

Aさん：余り3ってあるけれど、これをどうしたらいいかわかりません。

Bさん：4人がけの椅子に座っていくから。余りがでないはずだけど。

先 生：みんな座るはずなのに、余るってことがよく分からないってことかな。
(多くの児童が、うなずいたり、つぶやいたりする)

先 生：この余りの3について、どうやって調べればいい？
(口々に、絵、ブロック、などと発言する)



写真①

「余りの3」に着目させ、問題場面と計算の結果が結びついていない様子を捉えたH先生は、グループで「余りの3」について考え合う活動を位置付けました。H先生は、各グループのうち3人で座るためのもう一脚の長いすが必要であることを捉えられたグループ(写真②)に、全体追究で発表するように促しました(写真③)。



写真②

Cさん：ここに27人いて、4人ずつこうやって座っていくと
(ブロックを4個ずつ動かす)、3人余ります。
この3人も座るので、もう一脚長いすが必要で、6脚では足りなくて6に1を足して7脚必要だということが分かりました。



写真③

この後、H先生は、児童の追究の振り返りから、元の問題場面に戻って状況を考えながら解決していくことの大切さを子どもと共に位置付けました。

H先生の、話し合う視点を「余りの数」に絞り、答えの意味を問題場面に戻って考える必要があることを子どもと共に確認し合った指導は、これまでも算数・数学で大切にされてきたことですが、次期学習指導要領でも、得られた結果を常に振り返って吟味しようとする態度の育成のために、より大切にされています。

このような授業を多く取り入れてみてはどうでしょうか。

2 「特別の教科 道徳」の実施に向けて②

ローテーションTT型道徳で、生徒も教師も変わった

原中学校では2学期に入り、ローテーションTT型道徳に取り組んでいます。ローテーション道徳とは、学級担任と学年の副担任が交代で学年の全学級を回って道徳の授業を行う取組です。つまり、一人の教師が同じ教材を使って学年の全学級で授業を行います。また、TT型道徳とは、文字通り複数の授業者が、進行役と板書役など役割を分担して行う授業です。この取組を継続する中で、次のような利点があることが分かってきました。

- 同じ教材で複数回授業を行うことで、すぐに自らの授業を改善できる。
- 学年職員全員で授業を分担するため、学級担任は教材研究の負担が減る。
- TT型で役割を分担することにより、今まで以上に生徒の様子をよく観察できる。
- 授業中にTTの先生と相談して、授業後半の補助発問等を再検討できる。
- TTとして授業を参観することで、他の教師の指導方法を学ぶことができる。

ふだんとは違う教師の授業を経験した生徒は「新鮮な気持ちになり、道徳が楽しかった」と話しています。生徒は新たなスタイルの授業に接したり、新たな視点に触れたりすることを通して、自らの見方・考え方が広がってきたことに楽しさを感じているようです。

先生方は、この取組を始めてから、職員室で道徳の授業について相談する機会が増えたそうです。また、授業が終わると学習カードを基に生徒の変容について語り合う先生方の姿も見られるようになったということです。

「道徳教育アーカイブ」をご活用ください

道徳教育アーカイブ

検索

文部科学省では道徳教育の充実を図るためにウェブ上に「道徳教育アーカイブ」というサイトを設置しました。アーカイブでは、改訂の方向性を見据えた工夫がなされていると思われる取組事例を紹介しています。各学校における道徳教育の抜本的な充実に向けた取組を進めるため、積極的にご活用ください。

【活用例】

- ・映像資料（約25分）を視聴し「考え、議論する道徳」のあり方について協議する。
- ・校内の研究授業を行うにあたって、「工夫事例（指導案）」をもとにして指導案を作成する。 等

3 総合的な学習の時間の充実①

来年度から「総合的な学習の時間」は

小・中学校とも新学習指導要領!

新学習指導要領において、「総合的な学習の時間」の目標が整理されました。「総合的な学習の時間」は学校教育目標の実現に向け、今まで以上に重要な役割を担っています。来年度に向けて、今年度の「全体計画」「年間指導計画」を見直し、改善を図りましょう。

Q1 「全体計画」の見直しのポイントは?



「総合的な学習の時間」での学びが、学校教育目標の実現となるようにすることです。学校教育目標と自校の「総合的な学習の時間」の目標とのつながりを意識しましょう。

まずは
全体計画だね。



Q2 目標のつながりってどういうこと?



目指す子どもの姿である学校教育目標を実現するために、新学習指導要領で示された「総合的な学習の時間」で育む資質・能力を踏まえて、自校の総合的な学習の時間の目標を位置付けていきます。例を見てみましょう。

中信小学校 総合的な学習の時間全体計画（部分）

<学校教育目標>

- かしこく 心ゆたかな たくましい子
- 1 課題に向かって本気で取り組む子
 - 2 明るく思いやりのある子
 - 3 健康で安全な生活ができる子

<「秋山っ子学習」の目標>

身近な地域の自然や社会とのかかわりを通して、課題を見付け仲間と協力しながら、主観的・創造的・協同的に課題を解決しようとするとともに、身近な地域の様々な人とのかかわりを通して、地域に対する親しみと愛着を深め自分の生き方を考えようとする

この学校の目指す子どもの姿には、「1 課題に向かって本気で取り組む子」とあります。「総合的な学習の時間」でも、子どもたちが自ら課題を設定し、主体的に課題を解決していくことを目標とし、学校教育目標の実現を目指していきます。目標がつながっていることがわかりますね。

目標のつながりって
大事だね。

Q3 目標のつながり以外に意識することはあるの?



全体計画の作成には、3つの必須項目があります。

各校における
学校教育目標

各校において定める
総合的な学習の時間の目標

各校において定める
総合的な学習の時間の内容

内容については次号で詳しくお伝えします。文科省ホームページも、参考になります。新学習指導要領における「総合的な学習の時間」の解説にも目を通してみてください。



4 研修会報告

初任研「教師力向上研修Ⅲ」 10/24 (火)

教師力向上研修Ⅲでは、特別な支援が必要な子どもの理解や指導について学び、「授業のユニバーサルデザイン化」や「合理的配慮」について考え合いました。



特別支援教育の講義では、「自分のクラスにもいる！」とクラスの子と結び付けて考えられることばかりで、多くのことを学ぶことができました。「土台があって、集団への支援が充実していれば、個別指導は減る」というお話をお聞きし、「これくらいでいいかな」と思ってしまう自分が時々いたことを反省させられました。「困った子」ではなく「困っている子」ということを忘れずに、では、どのようにしたら自分はその困り感に寄り添えるか、そして、その困り感を少しでもなくしていけるのか、もっともっと考えていきます。(初任者のまとめシートより)

研修を終えてのまとめや事後提出のワークシートのまとめから、どれだけこの研修から学ぶことが多かったかよく伝わってきました。また、事後提出のワークシートには、初任者指導の先生、教頭先生からもコメントをいただきました。多くの先生方に支えられて研修を重ね、力量を高める初任の先生方。私たちも初心にかえってもう一度、教師としての自分を振り返りたいと感じました。

＜初任者 A 先生の事後提出のワークシートのまとめ＞

今回の研修では、「15分解決法」を用いて自己課題や今抱えている悩みについて多くのアドバイスをいただきました。ひらがなの読み書きが難しい児童にどんな支援をしたらよいのか、その子の背景を含めて話したところ、「困った」と言える子ども同士の関係作りや、チームで対応することを教えていただきました。クラスを、どの児童にとっても居心地のよい空間にするために、「助けて」と言い合える関係作りをし、安心できる場所作りをしていきたいです。

【初任者指導の先生からのコメント】

子どもにとって一日いる教室が居心地の良いところになれば、学校生活がとても楽しく、自己実現に向かって頑張れると思います。そのために、みんなで協力する良さ、お互いの良さを認め合える場作りを工夫していきましょう。

【教頭先生からのコメント】

その子がその子らしくいられる学級は、その学級で一人一人が育つことを考えたとき、大変重要であることが分かります。チームで対応し、先輩の実践に学んだ今日の成果をいかし、今後も一人一人が安心できる居場所作りを追求していきましょう。

諏訪・上伊那地区 第3回授業づくり研修会 11/20 (月)

臨時的任用の先生方が、授業がもっとよくなる3観点について学び、ねらいを明確にし、ねらいの達成を見とどけられる授業構想ができるようになるための研修を開催しました。

○講義「授業がもっとよくなる3観点を意識した授業づくり～ねらいと見とどけ～」



- ①ねらいを明確に
- ②終末の子どもの姿をイメージ
- ③その姿に迫る学習活動設定
- ④ねらいの達成を見とどける場面を設定

教えた内容を優先に考えていたが、まず、ねらいを達成した子どもの姿を考えることで、何を身に付けてほしいのかを自分の中で整理でき、子どもを軸にした授業ができそうだと改めて感じた。
(参加者感想)

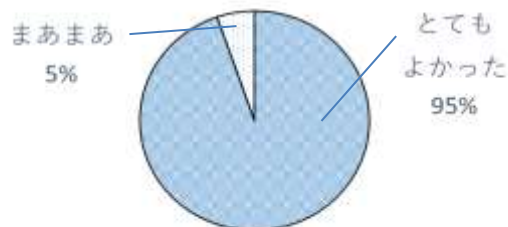
○演習「各教科等のねらいの達成の見とどけから考える授業づくり」

つきたい力に向けての手だてが、子ども達の実態に合っていないことが悩みでした。しかし、今日の研修を受けて早速学校へ帰って教材研究や準備をしたくなりました。
(参加者感想)



授業で生徒がわかる喜びを味わえていないというのが現在の課題でした。今日の研修で、授業することへの不安な気持ちが、少し楽みな気持ちになりました。
(参加者感想)

今日の研修に参加してよかったか



参加者の「参加してとてもよかった」との回答95%

指導の先生からのアドバイスやグループ内でのアドバイスがとても役に立ち、自分の中で新しい考えが浮かんできました。ねらいと見とどけを具体的に考えて、毎時間の授業をやっていこうと思います。
(参加者感想)

今回の研修は、「授業構想シート」を活用して、学習指導要領を再確認したり、教科の授業づくりのポイントを指導者から聞いたりしながら、今後行う授業を構想することを通して、授業改善のヒントをつかむことにつながったと考えます。来年度もさらに内容を充実させて研修会を開催いたしますので、ぜひご参加ください。